

技術・家庭科（技術分野）の主張

1 教科で育みたい人間像

5 技術・家庭科（技術分野）では、「技術を適切に評価し活用しながら、よりよい生活を営む人」を育みたいと考えている。

今、私たちの身の回りには、ありとあらゆる技術が溢れている。1人1台のスマートフォンをもち、気軽にコミュニケーションが図れるのはもちろん、自宅にいながら買い物ができたり、雨の降る時間帯を分単位で正確に把握できたりと、私たちの生活は年々便利になっている。さらに、未来社会（society5.0）では、
10 IoTで人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有されていく。また、人工知能（AI）によって情報を製品自体が取捨選択し、必要な情報が必要な時に提供されるようになる。このように、技術は今後もさらに加速して発展するであろう。

しかし、その便利さが複雑な世界をもたらした。高機能の製品を求めるあまり、必要以上に価格が高騰してしまったり、便利なものが増えていく裏で、自然環境が破壊されたりしているという現実がある。

15 そこで大切になるのは、技術の本当の価値や本質を見極める力であると考え。生活スタイルや経済状況が変化する中で、今の自分に見合ったものを適切に選択し、生活に取り入れていくことが大切になる。また、持続可能な社会を築いていくために、自然環境や社会問題にも目を向け、未来の為になる選択をしていくことも必要になるだろう。このように変化が目まぐるしい世の中でも、自分で技術を評価し、よりよい生活を創造できるようになってほしい。

20

2 教科ならではの文化

たらいと洗濯板で洗濯をしていた人々が、生活を少しでも楽にしたいという思いで電気洗濯機を開発したような時代とは異なり、乾燥機能付き洗濯機が主流となった現代は、衣類の汚れをセンサーで感知して
25 洗うなどの機能性や、インテリアの一部になるようなデザインを求める意匠性、運転時にふたが開かないようにするロック機能のような安全性など、さまざまな角度から技術が見つめられ、そのバランスをうまくとりながら進化し続けている。このことから現代に生きる私たちは、既存の技術を見つめ直し、異なる条件や立場からとらえ直していくことで、よりよいものを追求している。このような「技術を多様な視点から見つめ、最適解を求める営み」こそが、技術・家庭科（技術分野）で大切にしたい文化ととらえてい
30 る。

3 願う子どもの学び

技術・家庭科（技術分野）では、自らの生活をよりよくするための方策を構想し、設計、製作、評価と
35 いう技術的に問題解決を図るサイクルを経験する。この一連のサイクルのあらゆる場面で、「技術を多様な視点から評価し、試行錯誤すること」が願う子どもの学びである。子どもたちの自らの生活をさまざまな視点から見ようとする態度や姿勢は、技術を適切に評価し活用することへつながり、よりよいものを創造していくことができるようになっていくのではないだろうか。

多様な視点から技術を見つめるためには、仲間とのかかわり合いの中で、自分にはなかった視点に気づく
40 ことが必要である。そのため、製作においても単なる個人作業にならないよう、設計段階で考えたものを見せ合って吟味する活動や、協力して作業を行い、互いに評価し合うことで、自分にはなかった視点に気づく機会を与えていきたい。

また、自分にはなかった視点に気づいた子どもたちは、再び自分と向き合い試行錯誤を始める。そのようなアイデアを検証していく過程にこそ、学びがあると考えている。気づいた視点を効果的に活用し、より
45 よいものに改善していく時間を十分に確保することで、子どもたちの学びの姿を見とっていきたい。